

# 第6回 六角川水系流域治水協議会 議事概要

## 1. 概要

今回の協議会では、令和4年度に実施した各機関の取組を報告・共有しました。  
また、各機関が抱える課題の解決に向けて、それぞれの関係者が議論する場として実務者会議を設置していくことを報告しました。

## 2. 実施状況

- 日時 : 令和5年5月26日(金) 14:30~16:00
- 開催場所 : 武雄河川事務所
- 参加機関 : 多久市、武雄市、小城市、大町町、江北町、白石町、佐賀地方气象台、北部九州土地改良調査管理事務所、九州森林管理局、森林整備センター、佐賀県、武雄河川事務所

## 3. 議事内容

- 1) 流域治水対策行動計画に基づく行動結果の報告
- 2) 実務者会議について
- 3) 流域全体で共有すべき事項について

## 4. 各機関の主な取組の報告(各機関の報告内容のうち、主な取組を抜粋して記載)

(河:武雄河川事務所、県:佐賀県、多:多久市、武:武雄市、小:小城市、大:大町町、江:江北町、白:白石町、気:佐賀地方气象台)

- 【河】ヨシ繁茂抑制対策を令和5年出水期前に完成予定。六角川の洪水調節施設の関連として河道の付替工事を実施中。高橋排水機場の増強について1~3号ポンプのうち2・3号ポンプの増強が完成。牛津川の引き堤を現在施工中。牛津川遊水地については、初期湛水池が完成し、周囲堤については用地協議等を小城市と連携し実施中。
- 【県】プロジェクトIFとして、「人命等を守る」「内を貯める」「内水を流す」の3つの取組を実施中。令和4年度は「人命等を守る」として内水監視カメラや浸水計等を設置しHPで公表した。「内水を貯める」としてクリークの護岸整備や田んぼダムなどに取り組んだ。「内水を流す」として排水ポンプ車を5台配備し、堆積土砂の浚渫や排水機場の耐水化を進めている。治山事業として流木・土砂流出抑制のため、流路工や山腹工を実施した。
- 【多】「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として緊急浚渫推進事業を実施、令和5年度は5河川で4,430m<sup>3</sup>の掘削を予定。また、「農村地域防災に関する事業」としてため池災害からの被害を軽減し、農村地域の防災力を強化したい。地域住民の避難行動の安全性そして迅速性を図るため、これまでに38か所のハザードマップを作成しており、令和5年度には新たに16か所を予定。
- 【武】「ためる」取組として田んぼダムやため池を活用して貯水量を130万m<sup>3</sup>確保した。「ながす」取組として、河川の浚渫を実施。「おくる」取組として排水ポンプ車を購入した。「水害への備え」として、避難の際の参考のため内水デジタルハザードマップを整備した。
- 【小】「氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策」として牛津川の遊水地事業の小城市が取り組む部分として事業に影響する家屋の集団移転先の各調整を行っている。ため池やクリーク等の事前落水の実施、田んぼダムは令和5年度より推進する。令和4年度に排水機場の設備改修工事の実施計画書を策定し、令和5年度から改修工事を実施する。情報配信アプリ「OgiOgi」を活用した災害情報配信を継続して取り組む。
- 【大】溜まった水を流す取組のうち排水ポンプの整備として止水壁の整備、遠隔操作設備の整備、監視カメラの整備、ポンプの増設を進めている。ため池の洪水調節機能強化としてかんがい機能を廃止又は縮小しているため池について、洪水調整施設として活用する為に必要な整備を行いたい。
- 【江】総合排水計画を昨年3月に策定し、計画的に「流す」「溜める」「防ぐ」の取組を進めているところ。排水機場の長時間運転を前提としたポンプの増強、排水機場の浸水対策、クリークの事前落水に取り組んでいる。
- 【白】氾濫を出来るだけ防ぐ・減らす対策として「事前排水」に力を入れており、580万m<sup>3</sup>の貯留量から更に50cm水位を下げて100万m<sup>3</sup>貯留量を増量した。また排水ポンプの整備や、「被害対象を減少させるための対策」として住宅の嵩上げ補助、「被害の軽減・早期復旧・復興のための対策」としてリアルタイムな情報の発信を行うための整備を実施する。
- 【気】線状降水帯の発表に関しては次の2点の改善計画をしている。まず半日前程度の予測情報については現状の地方予報区単位から市町村単位まで絞っていく改善を2029年を目標に計画している。次に線状降水帯の発生情報については30分前の提供を令和5年度より開始し、将来的には2~3時間前に提供を予定している。

# 第6回 六角川水系流域治水協議会 議事概要

## 5. 実務者会議の設置

(河:武雄河川事務所、県:佐賀県、多:多久市、武:武雄市、小:小城市、大:大町町、江:江北町、白:白石町)

【河】牛津江排水機場の事故をうけ、操作員の安全な操作、安全な退避、施設の改善など課題解決に向けた実務者会議を令和5年5月22日に立ち上げた。

【多】東多久町の区長会で「東多久町牛津川遊水地対策協議会」を設けており、事業の説明や地元対策がこれからとても大切なため、関係機関が連携して実務者会議に参加して協議が必要だろうと思っている。

県河川の永瀬川・庄川という2つの河川は大雨等の時には必ず外水の影響を受けて内水位が上昇して近隣の家屋等への影響が出ている箇所であり、頻繁に内水氾濫を起こしている。関係機関による実務者会議で早急な対策の協議と実施が必要。

【武】床上浸水ゼロという目標に向けてさらに具体的な対策の検討が必要になってくると考えており、地域ごとの対策事業の目標と効果を共有して対策を進めるため実務者会議で検討を進めたい。

【小】牛津川の右岸地区は特に令和元年と令和3年の大雨の際に山間部側からの雨水の流入による水路の氾濫や農地の湛水被害にみまわれてきた。関係市町で連携が取れるよう実務者会議の設置を要望したい。

【大】県の一級河川高良川は、よく越水をするということで関係機関で実務者会議を行いたい。

【江】個別にはいろいろ協議させていただいている。まさに流域治水という考え方、取組だからこそこうしたことが出来るとということに感謝している。

【白】白石町流域治水推進計画により、有明海に排水するという取組は農水省との実務者会議が絶対必要と考えている。また、クリーク防災についても関係機関の協力が無いと行動は出来ないと考えているため、協力をお願いしたい。

## 会議の開催状況

